

景気循環のトレンド分析（2）

新型コロナショックの累積ダメージ、業種により大きな差

～ 景気DIは8カ月ぶりにトレンド水準を上回る ～

データソリューション企画部

窪田 剛士

企業の景況感は2020年6月以降5カ月連続で上向き、2020年10月の景気DIは8カ月ぶりにトレンド水準を上回った。しかし、新型コロナショックによる影響は累積的に蓄積されているほか、業種によって大きく異なる。本レポートでは、新型コロナショックの累積ダメージを業種別に計測した。新型コロナウイルスの感染状況が再び拡大するなか、ダメージが蓄積している業種に対する施策の投入が一段と重要になる。

1. 2020年10月の景気DIは8カ月ぶりにトレンド水準を上回る

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大にともなう企業活動の悪化が続いているなか、企業の景況感を示す景気DI¹は2020年6月以降、5カ月連続で上向いていた。そこで、景気DIについてトレンド成分を抽出²したところ、2020年10月の景気DIが8カ月ぶりにトレンド水準を上回ったことが分かった（図1、図2）。ただし、景気DIは依然として低水準であるとともに、新型コロナショックからの持ち直しは業種により大きなバラつきがみられている。

2. 累積ダメージは「旅館・ホテル」が最大に、ショックからの持ち直しは「家具類小売」がトップ

新型コロナショックから企業マインドへの累積的な影響を捉えるため、2020年1月以降の景気DIとトレンド成分との差分を業種別に累積することで計測した（図2のA、B、Cに該当する面積の合計）。その結果、累積的に最も大きなショックを受けていたのは「旅館・ホテル」で-82.1ptであった（表1）。次いで「人材派遣・紹介」（-62.8pt）、「飲食店」（-61.4pt）が続いた。逆に、比較的マイナスのショックが小さいのは、スーパーなどを含む「各種商品小売」（-14.9pt）、次いで「医薬品・日用雑貨品小売」（-19.3pt）、「家電・情報機器小売」（-23.9pt）となった。

一方、2020年6月以降で、景気DIがトレンド線を上回った乖離幅（図2のCに該当する面積の合計）を業種別にみると、最もトレンド水準を累積的に上回っていたのは「家具類小売」（+26.4pt）だった（表2）。以下、「再生資源卸売」（+13.9pt）、「旅館・ホテル」（+12.5pt）、「各種商品小売」（+10.9pt）、「自動車・同部品小売」（+9.5pt）が続いた。ただし、景気DIの水準は2020年10月時点でいずれも40を下回っており、厳しいなかでの持ち直し過程となっている。

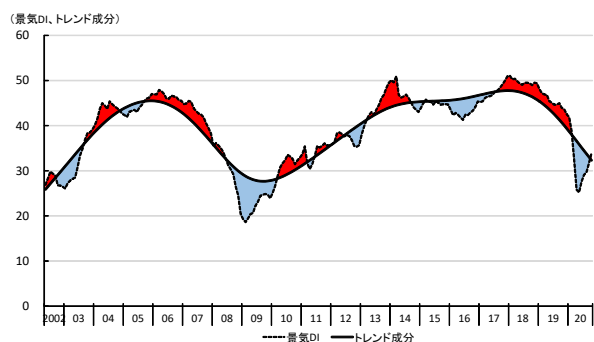
¹ 帝国データバンク「TDB景気動向調査」

² データをトレンド成分と循環成分に分解する手法としてホドリック=プレスコット・フィルター（Hodrick=Prescott filter: HPフィルター）を用いている。（Hodrick, Robert J. and Edward C. Prescott, “Postwar U.S. Business Cycles: An Empirical Investigation,” *Journal of Money, Credit and Banking*, 29(1), 1997, pp.1-16）

まとめ

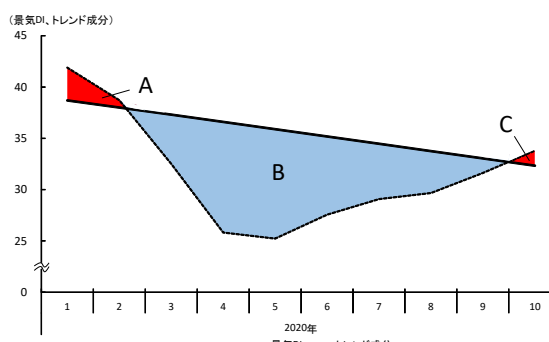
新型コロナウイルスの感染が再び拡大しているなか、企業へのダメージは着実に蓄積されている。また 51 業種中 13 業種においては、景気 DI がトレンド水準を依然として下回っており、その累積的な影響は業種によって大きく異なる。政府・自治体・企業など官民一体となった、ダメージが累積している業種に対する施策の実施が一段と重要となっている。

図1 景気 DI とトレンド成分



注:トレンド成分は、Hodrick-Prescott(HP) filterにより抽出
出所:帝国データバンク「DB景気動向調査」

図2 景気 DI とトレンド成分 (一部拡大)



注:トレンド成分は、Hodrick-Prescott(HP) filterにより抽出。循環成分は、景気DIとトレンド成分との差による
出所:帝国データバンク「DB景気動向調査」

表1 新型コロナウイルスの累積ショック

累積ショック: マイナス幅の大きい上位5業種

	業種	累積ポイント	景気DI
1	旅館・ホテル	-82.1	27.2
2	人材派遣・紹介	-62.8	29.2
3	飲食店	-61.4	18.2
4	娯楽サービス	-56.4	23.7
5	運輸・倉庫	-54.9	30.1

累積ショック: マイナス幅の小さい上位5業種

	業種	累積ポイント	景気DI
1	各種商品小売	-14.9	37.6
2	医薬品・日用雑貨品小売	-19.3	33.3
3	家電・情報機器小売	-23.9	34.2
4	農・林・水産	-25.5	34.4
5	飲食料品・飼料製造	-28.5	34.2

注1:「累積ポイント」は、2020年1月以降の景気DIとトレンド線との乖離幅の合計
(図2のAとBとCの合計)

注2:「景気DI」は、2020年10月

表2 ショックからの持ち直し

持ち直し上位10業種

	業種	累積ポイント	景気DI
1	家具類小売	26.4	37.5
2	再生資源卸売	13.9	32.9
3	旅館・ホテル	12.5	27.2
4	各種商品小売	10.9	37.6
5	自動車・同部品小売	9.5	34.6
6	輸送用機械・器具製造	7.1	34.9
7	放送	7.0	34.4
8	飲食料品小売	6.7	38.8
9	教育サービス	5.8	34.7
10	繊維・繊維製品・服飾品小売	5.7	27.8

注1:「累積ポイント」は、2020年6月以降で、景気DIがトレンド線を上回った乖離幅の合計(図2のCの合計)

注2:「景気DI」は、2020年10月

【 問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク データソリューション企画部 産業データ分析課

窪田 剛士

03-5775-3163 keiki@mail.tdb.co.jp

帝国データバンクで毎月実施している TDB 景気動向調査にご協力いただける企業さまは、こちらから登録できます(スマートフォン等をお使いの方はQRコードからも可能です)。

<https://www.tdb-di.com/ent/rent.html>



当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。